

平成25年度 社会福祉法人 開成町社会福祉協議会 事業報告

はじめに

開成町社会福祉協議会は、一人ひとりの声を大切に、生涯にわたる生活を総合的に支えるしくみをコミュニティワークの実践をつうじて築いていくこと、開成町らしさあふれる”共助”文化の創造をめざして、平成25年度は次の事業・活動に取り組みましたので

目次

地域福祉活動推進部門

01 自治会福祉活動の支援	2
02 ボランティア活動の推進（ボランティアセンター）	4
03 当事者活動の支援	7
04 広報啓発事業の充実	11
05 福祉教育事業の充実	13

在宅福祉サービス部門

06 総合相談・援護事業の充実	16
07 福祉サービスの利用支援	18
08 在宅福祉サービスの推進（介護保険外）	19
09 介護保険事業の推進	22
10 地域包括支援センター事業の推進	24

法人運営部門

11 事業推進体制の整備	26
--------------	----

1 自治会福祉活動の支援

1 自治会福祉活動サポート事業の実施

内容	暮らしに身近な小地域（自治会エリア）において、さまざまな人々が互いにたすけあい、交流できるようにする取り組み（自治会福祉活動）が、それぞれの地区にふさわしい創意と工夫を活かしたものと主体的かつ継続的に展開できるよう支援するために、サポート事業を実施しました（助成金の交付、地区担当職員の派遣等）。 具体的には、自治会福祉活動の推進に意欲的に取り組む自治会を実施主体とし、次のメニューのうちいずれかを、地区の特性を活かしてすすめました。 ステップ1（基本事業） 啓発活動 ～ ふれあい交流活動、広報啓発活動 援助活動 ～ 定期的訪問・見守り活動、ふれあい・いきいきサロン活動、その他 ステップ2（選択事業） 認知症高齢者を支える活動 介護予防を目的とした活動
期日	通年
対象地区	岡野、金井島、上延沢、下延沢、円中、宮台、牛島、上島、河原町、榎本、中家村、下島パレットガーデン *計13地区
助成額	計1,467,000円（*1地区上限130,000円、平均112,846円）
職員派遣回数	延79回（*全事業計/前年比6回増）
成果	町内全13自治会の福祉部（福祉活動推進組織）において、それぞれの地区にふさわしい創意と工夫を活かしたたすけあい活動が主体的に展開されました。特に「ふれあい・いきいきサロン」（おしゃべり会・お茶のみ会）については、すべての自治会福祉部が取り組み、年間延111回（前年比23回増）開催されました。
課題	自治会福祉活動に携わっておられる実践者の皆さんから、「次代の担い手が育っていない」「サロンに新しい参加者が来ない」「プログラムがマンネリ化してきている」等の声（課題）が届いています。また、地区ごとの総事業費に占める本会からの助成割合が15%の地区があるいっぽう、87%の地区もあり、助成配分の見直しも課題です。

2 自治会福祉部連絡会等の開催

内容	各地区の事業進捗状況についての情報交換と今後の新たな活動展開及び課題についての意見交換等を行うために、連絡会と研修会を開催しました。 連絡会 災害時要援護者対策について（町福祉課） 各自治会福祉部の事業・活動状況等について 研修会（講演会） テーマ：地域活動の担い手育成と地域診断のすすめ ～皆さんの地域をみつめる意味～ 講師：川上 富雄 さん（駒澤大学准教授）
期日	6月27日（木） *計2回 3月14日（金） *は足柄上1市5町社協合同
会場	福祉会館
参加者数	延59人
成果	前述1（サポート事業）課題欄記載の声（課題）を踏まえたテーマにより研修会を開催しました。住民の皆さん自身が地域を見つめ、診断するとともに、現状や課題を振り返り、今後の活動充実へつなげるための手法について理解を深める機会となりました。
課題	自治会福祉部長のなかには就労されておられる方もあり、出席いただきやすいよう連絡会については平日夜間開催としていますが、広域開催の研修会については平日日中のため、出席が困難な方もいます。

3 コミュニティ推進用機材の貸出

内容	ふれあいと相互理解を広げる活動の促進を図るために、コミュニティ推進用機材を自治会等各種団体へ貸出し、活動を支援しました。
----	--

期日	通年			
貸出件数	スポーツマット	096件(40)	募金箱	003件(02)
	ワイヤレスアンプ・マイク	079件(02)	毛氈	003件(02)
	ビデオプロジェクター	020件(01)	ゲートボール用具	002件(05)
	キーパー	009件(03)	ペタンク用具	002件(02)
	テント	008件(03)	高齢者疑似体験セット	001件(01)
	ゴザ	006件(01)	*計	233件(00)
	めくり台	004件(01)	* () は保有台数	
成果	スポーツマット及びアンプマイクは、福祉会館ホール利用団体の借用が必ずあるため、利用が多くなっています。			
課題	プロジェクター使用に伴い再生機器(主にDVD)貸出の要望があるため、検討中です。			

2 ボランティア活動の推進(ボランティアセンター)

1 ボランティア講座の開催

内容	<p>ボランティア活動に興味のある方々を対象として、知識の習得と住民の主体的な福祉活動であるボランティア活動への参加を促進することを目的に、ボランティア活動入門編としての各種講座を開催しました。</p> <p>また、26年度新規予定の「お互いさま活動“ちょこボラ”」創設へ向けて、事業の担い手育成及び自治会福祉部員等のスキルアップを目的に講習会を開催しました。</p>	
	手話講習会（入門講座）	
期日	2月07日（金）	3月07日（金）
	2月21日（金）	3月14日（金）
	2月28日（金）	*計5回
会場	福祉会館	
協力	手話サークルかたつむり、足柄上ろうあ福祉協会	
参加者数	延63人	
	生活支援型ボランティア派遣事業講習会	
期日	2月22日（土）	
会場	福祉会館	
協力	神奈川リハビリテーションセンター	
参加者数	12人	
	AED講習会（救急法短期講習）	
期日	3月2日（日）	
会場	福祉会館	
協力	開成町赤十字奉仕団	
参加者数	12人	
	傾聴の基本（足柄上ボランティア研修会）	
期日	11月20日（水）	
会場	山北町中央公民館	
講師	NPO法人シニアライフセラピー研究所 理事長 鈴木 しげ さん	
参加者数	8人（*当町からの参加者）	
共催	足柄上1市5町社協	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・手話・AED講習では、知識・技術の習得がすすみ、興味関心が深まりました。 ・新規事業創設準備として開催した講習会では、住民各位に事業の周知を図ることができ、個人ボランティア登録にもつながりました。 ・協力団体（かたつむり、ろうあ福祉協会、赤十字奉仕団）の活動の一端を参加者に周知できました（登録ボランティアグループの活動紹介）。 ・協力団体との連携がすすむとともに、団体の組織強化（会員増強）にもつながりました。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「お互いさま活動“ちょこボラ”」の担い手育成に向けた講習会の継続的開催（安定的事業展開準備）。 ・入門編としての新たなメニュー開拓。 	

2 ボランティア活動交流会の開催

内容	町内外で活動するボランティアグループ等が集い、お互いの交流を深め、情報と課題を共有し、ボランティアネットワークの拡大を図ることを目的に、交流会を開催しました。グループの活動紹介、情報・意見交換等。
期日	3月27日（木）
会場	福祉会館
参加者数	11人（7グループ）

成果	情報・意見交換が活発に行われ、他グループの活動に興味をもたれた方が多くおられました。
課題	開催日時の検討（平日日中開催のため、出席できないグループ代表者あり）。

3 ボランティアグループ等の育成・支援

内容	情報提供等を行うとともに、活動費の一部を助成し、活動を支援しました。
期日	通年
助成数	9グループ
成果	地域で活動されている各グループへ活動費を助成し支援することにより、安定的・継続的に活動が展開されています。また、各グループの活動内容・状況等が把握できます。
課題	財源の確保と助成対象グループの固定化。

4 ボランティアセンター機能の整備・強化

内容	ボランティア活動に関する情報の整備・提供、相談及びボランティアの登録促進・育成等を行うことにより、ボランティアセンター拠点機能の整備・強化を図りました。
期日	通年
登録者数	グループ 11グループ(173人) *計 189人 個人 16人 *前年比同
成果	ボランティア登録により、団体は福祉会館利用料金免除、個人はボランティア保険を本会負担で加入することにより、負担軽減が図られています。
課題	登録団体・者の固定化とボランティアの高齢化。

5 災害ボランティア受入・派遣訓練

内容	災害ボランティアセンターの運営訓練を、足柄上1市5町社協合同にて実施しました。災害発生数日後を想定し、同センターを開設するとともに、ボランティアの受付・調整・派遣・帰着の一連の流れに従い訓練（シュミレーション）を行いました。
期日	8月31日（土）
会場	山北町社会福祉協議会
参加者数	7人（*当町からの参加者/職員）
共催	足柄上1市5町社協
成果	24～25年度と一部内容を変更し継続して訓練が実施できたことにより、災害ボランティアセンターの概要・運営方法等の理解がすすみました（24年度から足柄上地区社協連絡会事業として位置付け）。
課題	・同連絡会事業として今後の継続実施の有無。 ・災害ボランティアセンター運営マニュアルの整備検討。 ・有事の際の社協間の連携体制の構築。

6 車イスダンス広域交流事業「にこにこの会」の開催

内容	障がいをお持ちの方とボランティアや地域住民が車イスダンスを通じて交流を深めることを目的に、交流事業を開催しました。
期日	6月14日（金）
会場	山北町中央公民館
参加者数	21人（*当町からの参加者）

共催	県西地区2市8町社協、西さがみ矢車草の会
成果	2市8町の広域交流事業として多くの方に認知され、参加者からも楽しかった旨の声が寄せられました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・26年度10回を迎え、今後の継続開催有無について検討が必要。 ・協力ボランティアの高齢化と負担。

○ 出雲市活動会本部

3 当事者活動の支援

1) 高齢者関係

1 ふれあい交流会の開催

内容	各種在宅福祉サービス利用者や心身障がい者地域作業所れんげの会々員などが一堂に会 する社会参加の機会を提供し、相互の交流と仲間づくりを促進するために、交流会を開催 しました。 昼食会 余興 歌と交流 / 酒田保育園（園児） 歌 唱 / ふれあい金曜会歌唱隊
期日	5月11日（土）
会場	福祉会館
参加者数	186人
主催	ふれあい交流会実行委員会（民生委員児童委員協議会、町社協）
協力	開成町（福祉課、保健介護課）、婦人会、個人登録ボランティア、(株)クレシア開成工場、 AXコーヒー店、明治ゴムマイカー自治会駐車場
成果	日頃外出する機会の少ない方への外出機会と、相互の交流・ふれあう場面がそれぞれ提 供できました。また、参加者の身体状況等を担当民生委員児童委員が確認できました。
課題	参加対象者の増加に伴い送迎希望が多くなり、保有車両での送迎対応が難しくなってき ています。また、保育園と幼稚園で交互に毎年余興出演いただいていたが、幼稚園の 出演が難しくなったため、別出演団体を検討中です。

2 敬老会の開催

内容	* 台風のため中止 町社協から長寿夫妻祝品として、結婚60年夫妻（6組）並びに 同50年夫妻（13 組）へ記念写真とミニアルバムを後日贈呈させていただきました。
協力	フォートあしがら、文化団体連絡協議会
成果	長寿夫妻記念品は、後日ご自宅を訪問し贈呈しました。敬老お祝いメッセージ（開成小 学校2・3年生作品）は、9月中福祉会館ミニギャラリーに展示しました。
課題	地区敬老会の参加者数と比べると参加人数が少ないため、魅力ある内容の企画が必要。

3 老人クラブ連合会の育成・支援

内容	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために、活動を支援しました。
期日	通年
成果	県健康寿命増進関係事業に積極的に取り組み、さまざまな研修会を開催し、多くの参加 者がありました。
課題	会長後継者問題等を抱える単位クラブがあるため、当該自治会の協力も仰ぎつつ、良好 な運営へ向けた支援強化を図る必要がある。

4 高齢者生活実態調査の実施（新規）

内容	高齢者の生活実態や施策・サービスへの要望等を把握し、課題や福祉ニーズを明確化す るとともに、その解決へ向けて現行サービス改善の他、新規サービス創出のための基礎資 料とするために調査を実施しました。
調査期間	3月14日（月）～3月24日（月）
対象	高齢者98人（配布数は110人）

その他	本事業は25年度のみ
成果	高齢者の買い物の現状について特化した調査を実施。子ども世帯と同居または高齢者夫婦のみの世帯が半数以上を占め、現段階で買い物に困っている方は少数でしたが、今後の加齢に伴い不安のある様子が伺えます。週2～3回買い物に行くものの、重い荷物が持てないとの意見もありました。
課題	コミュニティバスの巡回運行も視野に入れながら引き続き調査を検討中。

2) 障がい児者関係

1 足柄上郡障がい者ボウリング大会の開催

内容	障がいをお持ちの方の社会参加を促進する事業の一環として、ボウリング大会（コロナキャットボウル小田原店招待事業）を開催しました。
期日	2月7日（月）
会場	コロナキャットボウル小田原店（小田原市）
参加者数	21人（*当町からの参加者）
共催	足柄上5町社協
成果	ボウリング大会終了後、福祉会館にて昼食をとりながら懇親会を実施（初）。参加者相互の親睦が深まりました。
課題	開催日時により送迎車両が限定されるため、送迎については参加者にも協力いただいている現状があります。

2 障がい児者ネットワーク会議の開催

内容	障がいをお持ちの方の生活を支援する一環として、関係機関・団体との情報の共有化と連携強化を図り、ネットワーク化をすすめるために、ネットワーク会議を開催しました。
期日	3月27日（木）
会場	福祉会館
参加者数	7人
協力	身体障がい者福祉協会、心身障がい児者と家族の会かるがも、KOMNY地域作業所れんげ、地域作業所合力の郷、開成町（福祉課）
成果	団体の抱える問題点の把握と解決へ向けた取り組みの検討ができました。
課題	関係団体全体が関わることのできるイベントの創出・開催等により連携強化を図りたい。

3 身体障がい者福祉協会と心身障がい児者と家族の会かるがもの育成・支援

内容	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために、活動を支援しました。
期日	通年
成果	身障協会は、今年度スポーツ吹矢教室を新規開催（月1回程度）。かるがもは、サマーレクリエーション等行事を積極的に開催したことにより、会員が3家族増となりました。
課題	身障協会々員の高齢化に伴い、今後同会の運営が難しくなることが考えられます。

2) 障がい児者関係

3) ひとり親家庭関係

1 ひとり親家庭ネットワーク会議の開催

内容	ひとり親家庭の生活を支援する一環として、関係機関・団体との情報の共有化と連携強化を図り、ネットワーク化をすすめるために、ネットワーク会議を開催しました。
期日	3月29日(土)
会場	福祉会館
参加者数	5人
協力	母子寡婦福祉会つくしの会、足柄上保健福祉事務所、民生委員児童委員協議会
成果	関係機関相互の情報交換等により、当事者のニーズ把握や課題の共有化を図ることができました。
課題	関係機関とのさらなる連携強化に向けた取り組みが必要。

2 母子寡婦福祉会つくしの会の育成・支援

内容	当事者の固有な課題の解決、相互援助活動の促進を図るために、活動を支援しました。
期日	通年
成果	今年度初めて、他市町交流行事として伊勢原市母子会と合同行事を実施。他市会員との交流と親睦を図ることができました。
課題	新規会員の募集方法の検討。

4) 子育て支援関係

1 子育て中の親子のサロン「チビっ子らんど」の開放

内容	福祉会館の一室(2F娯楽室、教養娯楽室)と3F人工芝バルコニー(ひよこ広場)を開放し、おもちゃ図書館的な要素を加味した子育て中の親子のサロンとしてチビっ子らんどを設置し、自由に交流や情報交換ができるスペースを提供しました。 また、毎月第2水曜には、ぱたぱたママの協力によるおはなし会を開催しました。 さらに、子育て支援センター酒田保育園の協力により、子育て相談や保護者の仲間づくりの一助となるよう、毎月1回チビっ子サロンも併せて開催しました。
期日	チビっ子らんど 毎週火・木曜(祝日除く) チビっ子サロン 毎月1回木曜 ひよこ広場 通年
会場	福祉会館
参加者数	延1,062人 *前年比66人増
協力	ぱたぱたママ、子育て支援センター酒田保育園
成果	定期的なスペース開放とおはなし会の実施により、親子どうしの交流・情報交換の場となっています。
課題	PR方法の検討。

2 新たな支援方策の検討(一部新規)

内容	新たな子育て支援事業の創出・展開へ向け、近隣市町の取り組み状況等を調査し、開成町ファミリーサポートセンター公募型プロポーザルに参加しました。
成果	残念ながら事業受託には至りませんでした。新たな子育て支援方策についての研究を行なうことができました。

課題

- ・地域の子育て支援に対する意識を高める取り組み。
- ・子育て家庭の具体的なニーズ把握。

4 広報放課事業の充実

1 広報誌「社協だよりかいせい」と「かいせい社協かわら版」の発行

内容	本会の活動・事業のPRと福祉情報の提供、福祉意識の啓発・醸成のために広報誌を発行し、町内全世帯、賛助会員及び関係機関等へ配布しました（自主財源確保の一環としての紙面への広告掲載含む）。	
1) 社協だより（A4 / 8頁）		
発行日	05月1日（ 164 ）	12月1日（ 167 ）
	07月1日（ 165 ）	01月1日（ 168 ）
	09月1日（ 166 ）	03月1日（ 169 ）
		* 計6回
発行部数	5,400部（7月のみ5,700部）	
2) かわら版（A4 / 4頁）		
発行日	04月1日（ 83 ）	10月1日（ 86 ）
	06月1日（ 84 ）	11月1日（ 87 ）
	08月1日（ 85 ）	02月1日（ 88 ）
		* 計6回
発行部数	5,300部	
成果	全戸配布により、本会の取り組む活動・事業を含む地域福祉全般の情報発信・提供ができました。	
課題	手に取って読んでいただける魅力ある紙面づくり。	

2 社会福祉大会の開催

内容	<p>永年にわたり社会福祉に貢献された方々の功績を称えとともに、住民参加の福祉のまちづくりをめざして、社会福祉大会を開催しました。</p> <p>式典 功労者等表彰・感謝、福祉作文コンクール等入選者表彰、福祉作文朗読等 アトラクション 寸劇 / 開成町消費者の会 体操 / かいせいいきいき健康体操指導員 器楽演奏 / 軽音楽グループダルセーニョ その他 ともしびコーナー（絵柄原画展、カレンダー配布）、福祉車両・機器展示・相談コーナー、各種当事者団体等活動紹介、共同募金</p>
期日	10月27日（日）
会場	福祉会館
参加者数	350人
後援	開成町（福祉課）、開成町教育委員会、自治会長連絡協議会、民生委員児童委員協議会、婦人会、共同募金会開成町支会、神奈川県社協
協力	開成・開成南小学校、文命中学校、老人クラブ連合会、身体障がい者福祉協会、心身障がい児者と家族の会かるがも、母子寡婦福祉会つくしの会、KOMNY地域作業所れんげ、地域作業所合力の郷、フォートあしがら、(株)明治ゴム化成、ミクニ書店、ネットトヨタ湘南(株)開成店、メディカルサービスおかもと、富士ライフサポート
成果	関係団体等多くの方に参加いただき、本会及び地域福祉についての啓発が図られた一日となりました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業部会による早い段階からの内容検討。 ・多くの方に来場いただけるよう、魅力ある内容の企画が必要。

3 ホームページの公開・更新

内容	本会の活動・事業のPRと福祉情報の提供、福祉意識の啓発・醸成のためにホームページを公開・更新しました（福祉会館各部屋の予約状況公開含む）。
成果	月2回定期的に掲載内容を更新することにより、リアルタイムの情報発信・提供ができました。
課題	定期的な内容刷新・リニューアル。

4 地区別がいせい社協説明会の開催（一部新規）

内容	広報・福祉啓発の一環として、広く住民の方々の福祉への理解と関心を高めていただくために、本会の事業・活動を紹介するとともに、福祉情報の収集と効果的な提供機能を充実・強化していくことを目的として、自治会の組長会議等において説明会を開催しました。	
期日	04月20日（土/下延沢） 04月21日（日/下 島） 05月12日（日/金井島） 05月14日（火/河原町） 05月18日（土/宮 台、榎 本）	05月19日（日/上 島、パレットガーデン） 06月08日（土/円 中） 06月15日（土/岡 野、牛 島） 06月16日（日/上延沢、中家村） *計13回
会場	当該地区の自治会館等集会施設	
参加者数	延422人 *前年比108人増	
共催	開催地の自治会	
成果	各自治会の協力をいただきながら、組長会議等へ本会役職員が赴き、事業・活動の紹介と併せて、会員募集・会費納入について説明し、理解と関心を高めていただきました。	
課題	組長各位に、いかに効果的・効率的に分かりやすく、親しみやすく、ポイントを絞りプレゼンテーションできるかが課題です。	

5 ともしびカレンダー作成（絵柄・標語コンクール）への協力

内容	ともしび運動の普及・啓発と併せて、福祉活動への主体的な参画意識を育むために、小・中学校の児童・生徒を対象として、ともしび運動推進協議会主催により行われるコンクールと入選作品のカレンダー化に協力するとともに、完成したカレンダーを公共機関等へ配布しました。		
募集期間	7～8月		
審査会期日	9月25日（水）		
応募数	1) 絵柄	2) 標語	
	小学生	17点	小学生 132点
	中学生	152点	中学生 257点
	*計	169点	*計 389点
作成部数	300部		
協力	開成・開成南小学校、文命中学校		
成果	各学校の授業において絵柄・標語の作成に取り組んでいただき、多くの応募がありました。応募された絵柄については、原画展として福祉会館内に展示しました。		
課題	入選標語を公開する場・機会を検討中です。		

5 福祉教育事業の充実

1 小学生ふくし一日教室の開催

内容	福祉施設における体験等をおとして、障がいをお持ちの方に対する理解と関心を深め、他人を思いやるやさしい福祉の心を育むことを目的として一日教室を開催しました。 施設見学、視覚・聴覚障がいに関する講話、点字・手話体験、聴導犬・盲導犬訓練デモンストレーション等。	
期日	7月26日(金) 8月02日(金)	8月20日(火) *計3回
会場	聴覚障がい者福祉センター(藤沢市)、神奈川県ライトセンター(横浜市)、日本盲導犬総合センター富士ハーネス(富士宮市)	
参加者数	延84人	
後援	開成町教育委員会	
協力	開成・開成南小学校、聴導犬育成の会、ボランティアグループ四つ葉	
成果	例年同様、各コースとも多くの参加者がありました(盲導犬コースは定員2倍の応募あり)。	
課題	日本盲導犬総合センターは一般来場者も受け入れているため、募集段階でその旨周知し、参加者数を絞る工夫が必要。抽選方法についても見直しが必要。	

2 親子ふくし教室の開催

内容	夏休み期間を利用し、子どもたちが福祉について考えるきっかけづくりとしてさまざまな体験機会を提供し、学校で行う総合的な学習の時間の取り組みにつなげるとともに、子どもたちだけでなく保護者層もともに体験することにより、自分自身や社会のあり方を考え、身近な地域の課題を解決できる力を育ていけるようにとの願いをこめ、ふくし教室を開催しました。 誘導・車イス・手話・点字体験、自助具、福祉車両、福祉会館見学等。	
期日	8月18日(日)	
会場	福祉会館	
参加者数	104人	
後援	開成町教育委員会	
協力	ボランティアグループ四つ葉、あしがら車椅子トイレマップの会、足柄上ろうあ福祉協会、手話サークルかたつむり、福祉ボランティア点字グループ若葉、メディカルサービスおかもと、富士ライフサポート、神奈川県社協	
成果	午前中は親子限定による体験コース、午後はオープン企画による自由参加とし、多くの参加者がありました。	
課題	盲導犬デモンストレーションを希望される参加者が多かったため、次年度以降採り入れたい。	

3 小・中学生福祉作文コンクールの実施

内容	作文をおとして社会連帯を基調とした福祉への理解と関心を深め、福祉活動への主体的な参加意識を育むために、小・中学校の児童・生徒を対象にコンクールを実施しました。 審査会では、小・中学生の部それぞれに優秀賞3篇(町社協会長賞、共同募金会開成町支会長賞、開成町教育長賞)、優良賞2篇、佳作5篇の各10篇を選出しました。 また、入選作品を文集化し、小・中学校や社会福祉大会にて配布するとともに、入選された児童・生徒に朗読・発表いただきました。 なお、上位作品を神奈川県福祉作文コンクール(神奈川県共同募金会等主催)に応募したところ、次の方が入選されました。 小学生の部(佳作):川本 啄巳 さん(開成小6年)	
募集期間	7~8月	
審査会期日	9月12日(木)	

応募数	小学生 中学生	468篇 *計 29篇	497篇
後援 協力	開成町教育委員会 開成・開成南小学校、文命中学校		
成果	小学生は例年多くの応募があるものの、中学生の応募数が減ってきています。作文の内容からは、子どもたちの福祉への関心の高まりが実感されます。		
課題	中学生の応募が少なくなっています。審査の際の客観的な選考基準を設ける必要があります。		

4 福祉ふれあい教育推進事業への助成

内容	酒田・酒田みずのべ保育園、開成幼稚園、開成・開成南小学校、文命中学校及び吉田島総合高等学校が各々実施する福祉ふれあい活動に対して助成するとともに、講師の派遣や情報提供等を行い、活動を支援しました。 開成幼稚園 ~ 敬老会手作り作品プレゼント 開成小学校4年生 ~ 総合的な学習の時間~ 公共施設見学（福祉会館） 同 ~ 共に生きる（視覚障がい者の誘導体験） 同 ~ 共に生きる（視覚障がい者との交流会） 開成南小学校4年生 ~ 総合的な学習の時間~ 公共施設見学（福祉会館） 同成南小学校4年生 ~ 総合的な学習の時間~ 共に生きる（点字体験） 文命中学校1年生 ~ 総合的な学習の時間~ 福祉体験（手話体験） 吉田島総合高等学校 ~ かるがもクリスマス会協力（フラワーアレンジメント） 同 2・3年生 ~ 福祉科社会福祉基礎福祉体験プログラム （誘導・車イス・点字・手話・認知症サポーター養成講座等） *計17回		
期日	通年		
助成数	4件（開成幼稚園、開成小学校、文命中学校、吉田島総合高等学校）		
協力	ボランティアグループ四つ葉、手話サークルかたつむり、あしがら車椅子トイレマップの会OB、点字グループ若葉、地域包括支援センター、宮里隆太郎さん、長谷川リウ子さん、金井恵美子さん		
成果	魅力あるプログラムや体験学習の場をとおり、園児・児童・生徒たちが福祉への関心をより高めてもらえるよう、学校や協力いただけるボランティアグループ等と連携を図りながら支援することができました。		
課題	助成できる額は予算の範囲内で限度があるため、園・学校側にも相応の予算化を働きかけていく必要があります。		

5 福祉教育関係者連絡会の開催

内容	福祉教育事業とボランティア育成事業との整理を前提として、福祉教育プログラムの充実と継続的な支援体制の確立及び学校等教育機関との連携強化を図るために、連絡会を開催しました。		
期日	6月24日（月） 2月24日（月）	*計2回	
会場	福祉会館		
参加者数	延18人		
協力	酒田・酒田みずのべ保育園、開成・開成南小学校、文命中学校、吉田島総合高等学校、開成町教育委員会		
成果	園・学校における福祉教育プログラムへの取り組みをはじめとする情報交換ができました。また、本会の福祉教育事業に対する意見・要望等も把握できました。		
課題	園・学校における福祉教育プログラムを連携・協働して体系的に行える企画の提案。		

6 資格取得のための学生等実習生の受入

内容	社会福祉士資格取得をめざす学生を、その実習先として受け入れました（社会福祉援助技術現場実習）。
期日	通年（実習期間は1人あたり概ね1週間～1ヶ月） *計5回（5人）
成果	実習指導者講習会受講済職員が2人になりました。受け入れ打診があったケースにはすべて対応できました。
課題	受け入れ依頼先の拡大（広報・ホームページの活用）と受け入れ体制・プログラムのさらなる充実。

6 総合相談・援護事業の充実

1 総合生活相談の実施

内容	住民の皆さんの日常生活上のあらゆる相談に応じ、関係機関との連携のもと、適切な助言と援助を行うことにより、福祉ニーズの問題把握から解決までの一貫した相談援助体制を確立するために、総合生活相談所を開設しました。 一般相談及び専門相談（法律・法務）。		
	1) 一般相談	毎月第2・4火曜	計22回
	2) 専門相談		
期日	法律	毎月最終00火曜	計12回
	法務	毎月第0・3土曜	計12回
	3) 特別法律相談会	11月11日(月)	1回
			*計47回
会場	福祉会館		
	1) 一般相談（相談員：民生委員児童委員）	2人/回	6件
	2) 専門相談		
相談員数 及び 同件数	法律（相談員：弁護士）	1人/回	29件
	法務（同：行政書士）	2人/回	33件
	3) 特別法律相談会		1件
			*計69件
	財産・相続	27件	住宅 5件
	土地	10件	家族 4件
	離婚	9件	権利擁護 3件
	事故	7件	その他 19件
			*計（重複あり） 84件
協力	民生委員児童委員協議会、横浜弁護士会、小田原行政書士会		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に相談窓口を開設することにより、住民各位のいざというときの駆け込み寺的な安心感につながっています。 福祉ニーズのキャッチ（問題把握）ができます。 		
課題	開催期日・時間。		

2 生活福祉資金の貸付（*県社協受託事業）

内容	低所得、障がい、高齢者世帯等の生活の安定及び修学のために必要な資金の貸付と相談指導を行いました。
期日	随時
相談件数	71件（生活福祉資金22件、総合支援資金30件、臨時つなぎ資金2件、緊急小口17件）
貸付件数	01件
協力	民生委員児童委員協議会
成果	低所得、生活困窮者への支援により、生活安定へ向けた一助となっています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 償還滞納者への対応 相談者（借受者）のフォロー（他サービスへのつなぎ）

3 小口（緊急）資金の貸付

内容	教育、自立更生、疾病治療、生活安定等のために緊急に必要な資金の貸付と相談指導を行いました。
----	---

期日	随時
相談件数	21件
貸付件数	20件
成果	一時的な生活困窮者への支援により、立ち直りのきっかけとなっています。
課題	相談者（借受者）のフォロー（他サービスへのつなぎ）

4 年末たすけあい援護費の支給

内容	年末たすけあい募金（神奈川県共同募金会開成町支会主管）へ寄せられた寄付金の一部を激励金として町内2ヶ所の障がい者地域作業所へ配分しました。		
期日	12月20日（金）		
内訳	れんげ	100,000円 *計	120,000円
	合力の郷	20,000円	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・激励金としての配分により財政的支援が図られました。 ・配分先の活動内容等状況把握ができました。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・配分先・額 ・各町社協間の対応方法の相違 		

* 交通遺児援護費及び災害見舞金は、今年度ともに支給対象なし

7 福祉サービスの利用支援

1 日常生活自立支援事業の実施（*県社協受託事業）

内容	判断能力が不十分な高齢者や障がいをお持ちの方の日常生活上の金銭管理、財産の保全及び福祉サービスの利用を支援するために、日常生活自立支援事業を受託・実施しました。	
期日	通年	
契約締結 審査会	奇数月第2木曜	*計6回 *足柄上5町社協合同設置・開催
相談件数	延481件	
訪問活動件数	延344件	
契約者数	延012人（うち、新規2人 終了3人）	
支援員数	延001人（非常勤職員）	
成果	行政や地域包括支援センターとの連携により、必要な方への支援が適切に行なえました。また、必要に応じて他制度（成年後見）への移行もできました。	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・契約者増と支援内容の多様化による支援員確保 ・本事業の対応範囲を超えるケースへの対応（判断能力低下） 	

2 福祉対象者カルテの整備・活用

内容	在宅での援助を必要とする高齢者や障がいをお持ちの方等の個別状況を把握し、適切なサービス提供へつなげることとあわせて、関係機関・団体との情報の一元化を図るために、名簿を整備し活用しました。	
期日	通年 *更新2回/年（9、2月）	
連携先	開成町（福祉課）、地域包括支援センター、民生委員児童委員協議会	
成果	各種サービス等の利用者・登録者を網羅することにより、データの一元管理ができています。	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報（プライバシー）保護による、カルテ掲載への拒否。 ・災害時要援護登録者や救急キット配布者の福祉対象者としての位置づけ。 	

8 在宅福祉サービスの推進（介護保険外）

1 福祉機器貸与事業の実施

内容	在宅で日常生活をおくることに支障のある高齢者や障がいをお持ちの方等に対し、必要とする福祉機器を貸与し、その在宅生活を支援しました。			
対象	高齢者または身体障がい者（要介護認定された方除く） 要介護認定され、介護保険給付サービス「福祉用具貸与」を利用する方（給付まで） 介護保険給付サービス「福祉用具貸与」の対象外の福祉機器を利用する方 一時的に負傷し、福祉機器が必要な方 町外在住の方を一時的に預かる方			
期日	通年			
利用件数	車イス	62件（27）	シャワーイス	2件（04）
	ポータブルトイレ	6件（10）	*計	72件（00）
	ベッド	2件（08）	*（ ）は保有台数	
			*前年比9件減	
利用者数	延36人（団体含む）			
成果	車イスの貸出が例年同様多くなっています。その他の機器については、入退院時の一時利用のケースがあります。			
課題	在庫機器のメンテナンス・処分。			

2 ふくし移送サービスの実施

内容	歩行困難な高齢者や障がいをお持ちの方に対し、日常生活上の移手段による利便提供として、ふくし移送サービスを実施しました。 *福祉有償運送対応事業			
期日	通年			
利用件数	1) 目的地別			
	足柄上病院	57件	小沢病院	3件
	北小田原病院	29件	厚木アクティブプロス	3件
	白鷗医院	6件	戸塚子ども医療センター	1件
	厚木衛生学園	6件	お堀端クリニック	1件
	小田原市立病院	5件	神奈川リハビリセンター	1件
	間中病院	4件	*計	116件
登録者数	2) 内容別			
	通院	114件	*計	116件
	入所・退所（施設）	2件	*前年比20件増	
	利用者	29人（うち、実利用者24人、新規20人）		
	支援者	03人（在宅福祉サポーター／運転業務）		
成果	足柄上病院までであれば民間タクシーと料金的にさほど差がないため、タクシー利用の方もおられます。車イス利用者の送迎希望が増えています（車イス対応車両配備済み）。			
課題	送迎可能範囲を神奈川県内としているため、横浜市等遠方の場合、送迎が困難なケースがあります。			

3 軽度生活援助事業の実施

内容	65歳以上の高齢者のみの世帯等に対し、軽易な日常生活上の援助を行い、自立した生活の継続を可能にするため、軽度生活援助事業を実施しました。
期日	通年

利用件数	1) 派遣別			
	社会福祉協議会	536件	* 計	575件
	シルバー人材センター	39件		
	2) 内容別			
	清掃、整理整頓	392件	洗濯・日干し	1件
登録者数	栄養管理（調理等）	222件	その他	93件
	庭の手入れ	68件	* 計（重複あり）	805件
	買い物	29件	* 前年比43件増	
	利用者	18人（うち、実利用者数8人、新規4人）		
	支援者	03人（在宅福祉サポーター／ヘルパー）		
成果	週2回程度屋内清掃で利用される方が多く、その合間に調理等で重複利用される方がおられます。			
課題	登録するものの、利用までは至らない方がおられます。			

4 ミニ・デイサービス「ふれあい金曜会」の実施

内容	<p>外出することの少ない高齢者がつどい、ふれあいのなかから相互の交流と仲間づくりを図ることにより、孤独感の解消と社会参加を促進するために、ミニ・デイサービスを実施しました。</p> <p>おしゃべり、歌、散歩、レクリエーションゲーム等。</p> <p>また、健康づくりの一環として、いきいき健康体操を毎回実施。アクセントイベントとしてあじさい見学や外食会を実施したほか、ゲスト等を招き、ともに楽しいひとときを過ごしました。</p>		
期日	毎月第2・4金曜	* 計23回	
会場	福祉会館他		
参加者数	延506人（ボランティアスタッフ含む）		
協力	ミニ・デイサービスボランティア・スタッフ、杉の子会、秀駒会（三味線）、おむすびころりん（人形劇）、ライリッシュ・オカリナ、マザーズベル（ハンドベル）		
成果	今年度は通常のレクリエーション以外に介護予防の視点を取り入れ、歯の講習会や栄養・消費者被害についての勉強会を実施しました。また、ふれあい交流会で歌を披露するなど、参加者のやりがいを引き出すことができました。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎対応していないため、遠方の方の参加が難しい。 ・新たな参加者の開拓。 		

5 レスパイト（障がい児者家族等の休息）サービスの実施

内容	<p>養護学校等に通う児童・生徒の夏休み期間中に、障がいをお持ちの方を一時的に預かり、介護者の身体的・精神的な負担軽減と、当事者の情緒安定等を図ることを目的として、レスパイトサービスを実施しました。</p> <p>水遊び、歌、レクリエーションゲーム、散歩、工作、おやつづくり等。</p>		
期日	7月22日（月）	8月19日（月）	
	7月29日（月）	8月26日（月）	
	8月05日（月）	* 計5回	
会場	福祉会館他		
参加者数	延59人（ボランティアスタッフ含む）		
協力	開成町（福祉課）、民生委員児童委員協議会、吉田島総合高等学校、個人協力ボランティア		
成果	5名の登録をいただき、ほとんどの方がすべての日程に参加されました。		

課題	お子さんの成長に合わせて、活動内容（プログラム）に変化を加える必要があります。
----	---

6 新たなサービス創出・展開へ向けた検討

内容	買物代行支援事業（試行／足柄上商工会・NTT）へ協力・参加しました。
期日	6～10月
成果	インフラ整備にある程度公的機関が加われば、今後の新たなサービス展開は可能。
課題	町内に大型スーパーや宅配事業者が存在するため、タブレット端末や電話による小売店舗への注文自体がほとんどありません。

9 介護保険事業の推進

1 居宅介護支援事業（ケアマネジメント）の実施（“介護予防”居宅介護支援事業を含む）

内容	介護保険法等関係法令に従い、利用者に対し可能な限り居宅においてその有する能力に応じて自立した日常生活を行うために必要な居宅サービスが利用できるよう「居宅サービス計画（ケア・プラン）」を、また地域包括支援センターからの委託を受け、要支援の方の「介護予防サービス計画」をそれぞれ作成するとともに、当該計画に基づいて適切な居宅サービスまたは介護予防サービスの提供が確保されるよう、サービス事業者等との連絡調整及びその他の便宜を図りました。		
期日	通年		
契約者数	介護	75人 *計	81人
	予防	6人 *前年比02人増	
利用者数	介護	706人 *計	760人
	予防	54人 *前年比94人増	
その他	詳細「資料1」のとおり		
成果	地域包括支援センターとの連携により、ケース検討、新規ケースの受入れについて柔軟に対応することができました。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の実施（事業所）。 ・利用者の意向、満足度に関する調査の実施。 		

2 通所介護事業（デイサービス）の実施（“介護予防”通所介護事業を含む）

内容	介護保険法等関係法令に従い、利用者に対し可能な限り居宅で自立した日常生活を営むために、「介護」給付対象または「介護予防」給付対象となる機能訓練やレクリエーション、給食、入浴等の通所介護事業を一体的に行いました。 「介護」給付対象：要介護1～5、「介護予防」給付対象：要支援1～2。 プログラムメニューとしては、午前はタオル体操や歌、ゲームのほか、あじさい見学等の季節に応じた行事を、午後はカレンダーづくり等さまざまな作品づくりをつうじて、手指の訓練を目的とした創作活動をそれぞれ実施しました。		
期日	毎週月～金曜（国民の祝日・12月29日～翌年1月4日を除く） *計 244回		
会場	デイサービスセンター（福祉会館1F）		
契約者数	介護	28人 *計	33人
	予防	5人 *前年比004人減	
利用者数	介護	2,572人 *計	2,903人
	予防	331人 *前年比218人増	
その他	*一日平均11.9人（同前年比0.9人増） 詳細「資料2」のとおり		
成果	介護予防と機能低下防止の取り組みをすすめるとともに、介助員等の援助のもと、利用者相互の交流等をつうじて、住み慣れた自宅で可能な限り自立した日常生活を営むお手伝いができました。 なお、25年度からサービス提供時間を延長し、サービス拡充に努めています（従前：午前9：50～午後4：00 新：午前9：40～午後4：10）。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時の柔軟な対応 ・営業日の拡大（祝日、土曜日等） ・サービス提供時間の延長（現行5～7時間未満 7～9時間未満） 		

3 サービス提供事業者としての経営改善へ向けた検討（一部新規）

内容	デイサービスセンター事業（通所介護、介護予防通所介護）の利用者・家族の意向・要望等を把握し、今後のより質の高いサービス提供・運営体制に反映していくことを目的として、アンケート形式による調査を実施しました。
----	--

期日	1月20日(月)～1月31日(金)
成果	デイサービスセンター事業に対する満足度は95.6%(概ね満足含む)と、前回調査時の89.5%を上回ることができました。前回調査時の意向を踏まえ、25年度からサービス提供時間を20分延長したことも要因のひとつと考えます。
課題	少数ではありますが、「祝日や土曜の営業」を望まれる声がありました。運営体制の在り方を含め、今後も経営改善へ向けた検討を続けてまいります。

10 地域包括支援センター事業の推進

1 包括的支援事業の実施

内容	二次予防の対象者が要介護状態になることを予防するため、心身の状況に応じて対象者自らの選択に基づき、介護予防事業を効率的に活用できるよう介護予防プランを作成しました。		
1) 介護予防ケアマネジメント業務			
プラン立案数	包括分	523件 *計	671件
	他事業者分	148件 *前年比0,089件増	
相談件数	延7,295件	*前年比1,453件増	
その他	要支援認定者の介護保険利用者数		668人
	サービス未利用要支援者へのアプローチ数		延24件
	認定結果の説明(訪問)数		延40回
*町との調整結果により、 は25年8月末にて対応終了(町:保険者対応に変更)			
2) 総合相談・支援業務			
相談件数	延1,057件	*前年比0,583件増	
3) 権利擁護業務			
相談件数	延59件(うち、虐待関係56件)	*前年比0,015件増	
4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務			
相談件数	延335件 *他事業者からの相談件数	*前年比0,067件増	
その他	詳細「資料3」のとおり		
成果	<p>5月から窓口当番を設け、「社協(包括)に行けば、相談できる 情報が得られる利用できる」と思っていただけの、身近な相談窓口の体制強化を図りました。また、民生委員児童委員協議会との研修機会を設け、同会との連携強化を図りました。さらに、足柄上地区地域包括支援センター連絡会(3部会)の幹事を担い、神奈川県総合リハビリテーションセンターや足柄上病院との連携を図りました。</p> <p>町が推進する「認知症サポーター養成講座」に協力し、職員2人が認知症キャラバンメイト研修を受講。福祉教育事業の一環として吉田島総合高等学校にて授業展開した結果、サポーターが39人増員できました。</p> <p>町居宅介護支援事業者連絡会での意見を活かし、法改正を見据えた新たなボランティア活動の創設へ向けた講座を開催しました。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口としての休日、夜間対応の検討。 ・地域包括ケアシステムの構築検討(関係機関との連携強化)。 ・法改正を見据え、社協の介護保険外サービスの在り方と担い手拡大検討。 ・職員の雇用体制見直しと資質向上。 		

2 二次予防対象者把握事業の実施

内容	開成町が必要と認めた二次予防対象者に対し、心身機能の低下を防ぎ、いつまでも住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、健康状態や生活状況を確認し、必要なサービスや相談を行っていくことを目的として調査を実施しました。		
相談件数	延969件	*前年比661件増	
その他	二次予防ケアマネジメントの実施数		延120件
	通所型介護予防事業 「からだ壮快!ふれあい塾」の開催	1クール11回コース×1クール	
		参加者数	延81人
	訪問型介護予防事業 「はつらつ 人生 応援隊!」の開催	訪問体操	15人
		訪問栄養	8人
		口腔	12人
詳細「資料3」のとおり			

成果	<p>昨年度までは通所型の介護予防事業のみの実施でしたが、今年度は通所型ではフォローできない方にも対象を広げるべく、訪問型の介護予防事業を実施。</p> <p>自宅へ訪問することにより、通所型ではみえてこない生活状況のアセスメントができ、よりその人にあった個別のプログラムを提供することができました。また、調査を行うことによりデータが蓄積され、関係機関から相談があった場合にもスムーズな対応が可能となり、必要な社会資源を活用し介護予防につなげることができました</p>
課題	<p>民生委員児童委員や自治会福祉部等、地域とのつながりを意識しながら介護予防に取り組んでいく必要があります。</p>

3 その他

内容	<p>地域ケアねっとわーく会議、 町（保険健康課）との連絡調整会議、 部門間ミーティングを毎月各1回開催</p>
その他	<p>詳細「資料3」のとおり</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・25～26年度の2ヶ年、足柄上地区をモデルに事業展開している神奈川県総合リハビリテーションセンターの地域支援センター職員に参画いただくことにより、多面的な支援案を検討することができました。 ・定期的な意見交換の機会を有効に活用し、町と連携した事業展開を図ることができました。 ・3専門職それぞれの見解を踏まえた事業展開やケース対応ができました。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報の共有化や処遇困難ケースの検討を重ねたうえで、地域包括ケアシステムの構築やケース会議の在り方を検討していく必要があります。医療（医師会）との連携に関しては、町（保険健康課）との調整が必要。 ・町（保険健康課）との定期的・継続的な意見交換の場の設定。 ・法改正の動向を見据えながら、他部門との合同ミーティングの場の設定。

11 事業推進体制の整備

1) 会務等

1 理事会の開催

内容	執行機関である理事会を、福社会館にて6回開催しました。
期日	5月13日(月)
出席者数	理事：11人、監事：2人
議題	平成24年度事業報告について 平成24年度一般会計決算について 監査報告 平成25年度一般会計補正予算について 評議員の選任について その他
期日	6月7日(金)
出席者数	理事：12人、監事：2人
議題	副会長の選任について 理事担当部会の選出について その他
期日	8月29日(木)
出席者数	理事：12人、監事：1人
議題	敬老会の開催について 共同募金の実施について 社会福祉大会の開催について その他
期日	10月4日(金)
出席者数	理事：12人、監事：2人
議題	社会福祉大会の開催について 役員研修会の実施について ファミリーサポートセンター運営事業の受託について その他
期日	12月12日(木)
出席者数	理事：10人、監事：2人
議題	開成町補助金等検証委員会結果への対応について 平成26年度予算編成について その他
期日	3月19日(水)
出席者数	理事：12人、監事：2人
議題	経理規程の一部改正について 退職手当積立金規程の一部改正について 平成25年度一般会計補正予算について 平成26年度事業計画について 平成26年度一般会計予算について その他

成果	役員各位から建設的・活発な質問や意見等が多く寄せられ、法人運営への主体的な参画意識が醸成されつつあります（年6回開催は県西地区最多）。
課題	問題意識の共有化を図り、「アイデアのゆりかご」として議論することにより、問題提起等、真の執行機関にふさわしい役割発揮をすすめます。

2 監事会の開催

内容	監査機関である監事会を、福祉会館にて3回開催しました。
期日	4月25日（木）
出席者数	監 事：3人
議題	平成24年度事業及び会計に関する決算監査
期日	9月3日（火）
出席者数	監 事：3人
議題	平成25年度（4～7月）事業及び会計に関する中間監査（第1回）
期日	1月16日（木）
出席者数	監 事：3人
議題	平成25年度（8～11月）事業及び会計に関する中間監査（第2回）
成果	中間含め年3回監査を実施することにより、定期的なチェック体制が構築されつつあります。
課題	監査提出資料（主に会計面）に工夫が必要。

3 評議員会の開催

内容	議決機関である評議員会を、福祉会館にて2回開催しました。
期日	5月22日（水）
出席者数	評議員：19人、理 事：4人、監 事：1人
議題	平成24年度事業報告について 平成24年度一般会計決算について 監査報告 平成25年度一般会計補正予算について 役員の選任について その他
期日	3月26日（水）
出席者数	評議員：18人、理 事：3人、来 賓：2人
議題	経理規程の一部改正について 退職手当積立金規程の一部改正について 平成25年度一般会計補正予算について 平成26年度事業計画について 平成26年度一般会計予算について その他
成果	評議員各位から第三者性を有した活発な質問や意見等が寄せられ、最終議決機関にふさわしいスタイルとなりつつあります。
課題	発言者が固定化されるきらいがあるため、進行方法に工夫が必要。

4 理事担当部会（総務・事業）の開催

内容	理事担当部会（総務、事業）を、福祉会館にて計2回開催しました。
1) 総務部会	
期日	9月25日（水）
出席者数	総務部会担当理事等：4人
議題	平成25年度事業（上半期）の進捗状況について 法人運営課題と今後の事業展開について その他 * 終了後、別途ともしびカレンダー絵柄・標語選考
2) 事業部会	
期日	9月18日（水）
出席者数	事業部会担当理事等：6人
議題	社会福祉大会の開催について 地域福祉活動推進事業及び在宅福祉サービス事業の各進捗状況について その他
成果	役員各位が理事会とは別に本会運営について幅広くかつ率直に参画・議論できる場として機能しています。
課題	開催回数増。

5 トップミーティング（経営者会議）の開催

内容	トップマネジメント構築へ向けた合意形成を図るために、正副会長、常務理事、事務局長、事務局次長の計6人によるミーティング（理事会開催前の事前協議等）を、福祉会館にて5回開催しました。
期日	05月09日（木） 08月22日（木） 09月25日（水）
	12月05日（木） 03月05日（水） * 計5回
成果	理事会に先立ち、本会全体のマネジメントについて協議し、コンセンサスを得る場として機能しています。
課題	本会の経営・運営方針や社会的使命、将来像、戦略の立案。

6 役員研修会の開催

内容	役員研修会を、2回開催しました。
1) 役員研修会	
期日	11月13日（水）
会場	福祉会館
出席者数	理 事：10人、監 事：1人
内容	かいせい社協を取り巻く現状と課題について（説明） 意見交換 ～社協らしさを発揮した今後の事業展開について～
2) 足柄上地区・西湘地区（2市8町）社協役員合同研修会	
期日	12月4日（水）
会場	福祉会館
出席者数	理 事：5人、監 事：2人（* 当町からの出席者）

内容	事例報告 ～地域の福祉力のさらなる向上をめざして～わが社協の描く経営戦略（ビジョン） 小田原市社協・開成町社協 意見交換 ～相互の有機的・やわらかなネットワーク形成を図りつつ、 県西の地らしい地域福祉の推進に資するために...おおいに語り合しましょう～
成果	1)については、例年行っている先進地視察のスタイルでなく、役員提案を具現化し、意見交換の場として開催したところ、喫緊の課題解決へ向けた具体的イメージの共有化がすすみました。
課題	理事会と法人全体の活性化へ資する内容の企画。

7 職員会議の開催

内容	職員の資質・専門性の向上と情報・課題意識の共有化を図るために、職員会議を福祉会館にて開催しました。
1) 常勤職員ミーティング	期日 毎週1回 *会長・常務理事含む
2) その他(居宅、通所、給食、包括 各部門別ミーティング)	期日 毎月各1回他
成果	専門職員間の情報・課題意識の共有化がすすみました。
課題	コミュニティワーク含む地域福祉援助技術等専門技術のレベルアップ。

8 職員の資格取得促進と各種研修等への参加

内容	職員の資質・専門性の向上を図るために、神奈川県社協等主催による各種研修会・研究会に随時積極的に参加しました。
成果	各担当業務にかかる専門知識・技術の修得がすすみました。
課題	体系的研修プログラムの立案と計画的な受講。

9 かいせい社協法人運営改革委員会の開催(新規)

内容	これからの地域福祉新時代をリードする新たな社協像を創造・構築すべく、法人運営を抜本的に見直し(テーマ毎集中的・多角的検討)、体質改善・組織改革へつなげることを目的として委員会を設置し、3回開催しました(平成26年9月末までの継続)。
期日	1月29日(水)
出席者数	委員:7人
議題	今後のすすめかたについて 個別テーマ毎の検討について その他
期日	2月25日(火)
出席者数	委員:9人

議題	組織及び財政の現状について 給与及び退職金等の現状について 福祉基金の現状について その他
期日	3月25日(火)
出席者数	委員：9人
議題	組織及び財政について 給与及び退職金について 福祉基金について その他
成果	開成町からの「開成町社会福祉協議会への補助金等検証委員会 総括結果」(25年11月)を受けて、本会として体質改善・組織改革に着手する旨、同年12月町宛回答。 同回答において、「経営戦略と評価システムの確立をめざした法人運営の抜本的な見直し」を緊急テーマとして掲げ、同テーマを解決・達成するための検討組織として標記委員会を立ち上げました。
課題	26年9月末を目途に、本会の今後のあるべき方向性(指針)を導き出すこととします。

2) 財源の確保

1 会員加入の促進と会員構成の拡充(一部新規)

内容	住民組織、公私社会福祉事業関係者をはじめ、幅広い分野からの参加を得、地域社会の総意を結集することとあわせて、社会福祉への関心の喚起、町社協への参加意識の醸成のために、一般会員は全世帯加入を、賛助会員は新規加入促進を各々目標に、町社協会員の募集と会費徴収を行いました。	
募集月間	7月	
加入結果	一般会員(一般世帯) *年額1口0,500円~	3,911世帯(4,388口/加入率64.5%) *前年比27世帯減
	同(各種団体) *年額1口0,500円~	0,064団体(0,534口) *前年比04団体増
	賛助会員(法人、企業等) *年額1口3,000円~	0,137社(255口) *前年比12社増
協力	自治会	
成果	各種団体及び企業の加入が増となりました(多くの団体等からの賛同を得ることができました)。	
課題	・世帯加入率の減少。 ・社協PR方法(広報啓発の強化)。	

2 寄付寄託者の拡大

内容	住民の皆さんから寄せられた善意の寄付金品等を受け入れるとともに、寄付寄託者の拡大を図り、自主財源の確保に努めました。 また、賛同いただいた企業や商店等に募金箱「善意の小箱」を設置させていただき、積極的に寄付金を募りました。	
期日	通年	
寄付件数	寄付“金”	55件
	寄付“品”	09件
	*計	64件 *前年比7件減
同 金額	一般受付分	1,283,265円
	善意の小箱(*設置協力店舗数：48店舗)	0,055,808円
	*計	1,339,073円 *前年比283,959円増

成果	寄付件数は減少したものの、寄付金額は前年度より増となりました。
課題	寄付募集PR、善意の小箱設置協力店増へ向けたPRの実施。

3 福祉基金の増強

内容	果実（利息）等を自主事業の安定した財源とするために、寄付金収入等により福祉基金の増強に努めました（最小限の基金取崩）。
期日	通年
積立等結果	平成25年度積立額 0円
	同成24年度取崩額 2,841,000円
	累計 77,159,000円
成果	改革委員会のテーマのひとつとして、福祉基金の位置づけ・在り方について現在検討を行っています。
課題	位置づけ及び活用方法等の見直し。

4 共同募金の実施

内容	神奈川県共同募金会開成町支会主管による共同募金に協力しました。 なお、お寄せいただいた寄付金は、赤い羽根共同募金分については神奈川県共同募金会へ全額送金するとともに、年末たすけあい募金分については一部施設への配分を除き、翌年度の町社協事業費として活用させていただきます。		
募金月間	10～12月		
同 結果	戸別募金	2,072,800円	学校募金 146,138円
	街頭募金	78,474円	その他の募金 42,221円
	法人募金	207,000円	*計 2,771,858円
	職域募金	225,225円	*前年比198円減
戸別募金協力	各自治会		
街頭募金協力	町長、町議会議員、民生委員児童委員協議会、KOMNY地域作業所れんげ、地域作業所合力の郷、吉田島総合高等学校		
成果	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体の協力により、街頭募金の実施回数が増となりました。 目標額（2,750,000円）を達成できました。 		
課題	具体的用途のPR、新たな募集方法の開拓。		

3) 連絡調整機能の充実

1 公私社会福祉事業関係機関・団体等との連携

内容	公私社会福祉事業関係機関・団体等と連携し、協働事業の推進を図りました。 なお、他機関・団体からの要請・依頼に応じ、本会役職員が着任・参画した委員会等は、次のとおりです。		
期日	開成町 高齢者保健福祉事業運営協議会	委員	（事務局長）
	同 協働推進計画策定作業部会	同	（同）
	同 次世代育成支援対策地域協議会	同	（担当職員）
	足柄上郡福祉会（あしがら広域福祉センター）	評議員	（事務局長）
期日	通年		
連携先	開成町、自治会長連絡協議会、民生委員児童委員協議会、共同募金会開成町支会、ともしび運動推進協議会、NPO、近隣社協		

成果	地域福祉推進のコーディネート役たる機能を柔軟に発揮し、関係機関・団体と連携しつつ、福祉のまちづくりをすすめました。
課題	地域福祉推進における本会としての明確な将来像の確立と協働事業の具体的展開。

2 福祉会館の管理・運営（*指定管理者制度事業）

内容	福祉会館の施設・設備の維持・管理並びに利用に伴う運営を行いました。また、利用案内等を広報紙に随時掲載し広くPRに努めるとともに、開成町とも連携を密にし施設利用の充実を図りました（本会ホームページ上にて福祉会館各部屋の予約状況公開含む）。 また、酒田・酒田みずのべ保育園及び開成幼稚園の園児、開成・開成南小学校や文命中学校の児童・生徒の絵画等作品を、年間をつうじて会館1F（ホール横）に展示しました。
期日	通年
利用回数	延04,878回 *前年比00,854回増
同 者数	延68,069人 *前年比14,440人増
その他	詳細「資料4」のとおり 利用回数及び利用者数の各実績は、25年度から町あて報告様式が変更したため、前年度と算出基準が異なっています。
成果	利用回数・人数とも毎年順調に増加しています。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・減免補填収入予算と決算のバランスが悪く、25年度よりマイナス精算で町あて返戻しています。 ・会館独自事業の開催等による利用料収入の増。 ・竣工から19年経ち、多くの修繕必要箇所があります。

3 民生委員児童委員協議会の運営・支援

内容	地域福祉推進のパートナーたる同協議会の事務局として、運営を支援しました。
期日	通年 *定例会及び役員会：毎月各1回開催
成果	22年度から本会が事務局を担うこととなりましたが、両者の連携協働体制がより強化され、地域福祉活動の着実な進展が図られつつあります。また、24年度から受託した地域包括支援センター事業においても、各地区の民生委員児童委員との連携が発揮され、住民の安心に寄与できています。
課題	予算措置がないものの、事務局運営の多様化とともに事務量が年々増加しています。